



◆2025年(令和7年)12月17日発行 ◆Vol.97

故きを温ねて、新しきを知る『帯広葵学園のあしかじめ』

葵の建学の精神から児童憲章まで

— その道のりをたどる —

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

帯広葵学園の歴史は1964(昭和39)から始まる。すでに丸60年が過ぎたことになる。その60年間がどうであつたかを振り返るとき、その時代に誰が理事長だったかは重要な手がかりとなる。それをまとめた資料が残つてゐるので紹介しておく。

昭和39年4月から昭和48年10月までの理事長は大然寺住職大高源照氏である。この時期を「草創期」と位置付ける。開園の動機は、帯広市内に幼稚園が少なつたことから、檀家からの「幼稚園をやつて欲しい」とする強い要望であった。お寺の境内、建物が園舎になつて始まつたとイメージして欲しい。

昭和43年には学校法人の認可を得て、翌44年には、子どもの数が増え始めた大空団地の中に「葵南幼稚園」を開園するが、準備不足も加わり相当厳しい運営であつたとする記録が残つてゐる。昭和48年11月から平成4年3月までは、阿部勝治氏が理事長を務める。阿部氏は前理事会より求められて理事長を引き受けている。この時、葵幼稚園は3学級で園児数121名、葵南幼稚園は4学級で124名、合計で245名の幼稚園であつた。そして、阿部氏が退任する平成4年は、平成2年に開園した葵西幼稚園も含めて総園児数508名を数得てゐる。この阿部理事長時代は葵学園の「拡大期」と言える。

平成4年4月から平成14年2月までの理事長は山田麟太郎氏が務める。前理事長の高齢化が理事長交代の主な要因だが、この山田理事長時代は色々な面から葵学園の「変革期」だと言える。それは、国内の教育環境は週5日制への移行などに伴い幼児教育のあり方を再検討する機運が高まつてゐたのである。葵学園においても三つの幼稚園、つまり、葵幼稚園、葵南幼稚園、葵西幼稚園を経営することは困難とし最も古い歴史を持つ葵幼稚園の廃園問題が起きていたのであつた。

そして、平成8年の忘れてはならない給食で提供したポテトサラダに起因する「O-157」感染問題を受けて葵学園は多方面からの見直しをすることになる。山田理事長は、その陣頭指揮を執り勇退することになるのであつた。それが、平成14年2月であった。この山田理事長時代は葵学園にとって正に「変革期」だつたのである。



学校
法人

帯広葵学園



帯広の森幼稚園



012おひもり



つつじが丘幼稚園



012青い鳥保育園



緑陽台認定こども園



柳町認定こども園



駒場認定こども園



あおいキッズランド



あおいヒガカイ



あおいヒガカイ

〒080-0022

帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F

TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778

URL <https://www.obihiroaoi.ed.jp/>